

医のチカラ

医聖会

ごあいさつ

理事長
真鍋 由美

2025年度は、医療・介護業界にとって「地域医療構想」始動という節目の年であり、関西では大阪・関西万博も開催され、医療・介護の現場と社会全体が未来に向けて大きく動き出す一年となっております。

当法人におきましても、地域に根ざす医療法人としての責任を改めて胸に刻み、職員一丸となって日々の診療とケアの充実に取り組んでいるところです。

そのような折、この度 令和6年度「日本公衆衛生協会会長表彰」という大変光栄な賞を賜りました。これは、地域に根ざした医療に日々励む職員一同の努力と、平素よりご支援くださっている皆さまのお力添えの賜物と、心より感謝申し上げます。

今後も、医療環境が厳しさを増す中にあっても、地域の皆さまとともに歩む医療機関として、一步一步着実に前進してまいりたいと存じます。

酷暑が続く折、皆さまにおかれましてはどうぞ体調にご留意いただき、健やかな夏をお過ごしくださいますようお願い申し上げます。



八幡中央病院

学研都市病院

胃がん検診を受けましょう

◆ 胃がんはどんな病気？ ◆

胃がんは、胃の壁の内側をおおっている粘膜の細胞が、何らかの原因でがん細胞となり、無秩序に増えることで発生します。がんが大きくなるにつれて、徐々に粘膜下層、固有筋層、漿膜へと、胃の外側へ深く広がっていきます。代表的な症状としては、胃の痛みや不快感、胸やけ、吐き気、食欲不振などがあります。また、がんから出血することで貧血を起こしたり、黒い便（血便）がみられることもあります。

◆ 胃がん検診の意義 ◆

胃がん検診は、内視鏡（胃カメラ）やバリウムによるX線検査を用いて胃の粘膜を詳しく調べ、胃がんやその前段階の病変を見つけます。



胃がんは早期の段階ではほとんど自覚症状がなく、かなり進行するまで症状が出ない場合もあります。その為、症状が現れる前に検診を受けることが非常に大切で、早く発見すれば体への負担が少ない治療が可能になり、治る確率も高まります。特に50歳以上の方は胃がんのリスクが高まるため、定期的な検診をおすすめします。

◆ 当グループでの取り組み ◆

八幡中央病院：専門の資格を持つ医師が胃がん内視鏡検診を実施しております。令和7年度からは八幡市が行っていたバリウム検診を院内で受けていただけるようになります。問い合わせ：075-983-0119（代表）

学研都市病院：胃がん検診を実施しております。健診センターを併設しておりますので、胃がんに限らず病気の早期発見をサポートしております。お気軽にお問合せください。問い合わせ：0774-98-2113（代表）

八幡市胃内視鏡検診

<https://www.city.yawata.kyoto.jp/0000010296.html>

八幡市胃バリウム検診

<https://www.city.yawata.kyoto.jp/0000008560.html>

学研都市病院 総合内科

加藤 久宗 Hisamune Katoh

今年4月1日より、学研都市病院 総合内科で勤務しております加藤 久宗と申します。主な専門はリウマチ・膠原病ですが、これらは骨・関節・筋肉といった運動器だけでなく、肺や腎臓、神経系、皮膚、血管など多くの臓器に障害を及ぼすため、総合的な視点を持って診療に当たれるよう日々研鑽を重ねています。当院では毎週月曜・水曜・金曜の午前に外来を担当しております。金曜はリウマチ専門外来ですが、月曜・水曜もリウマチ・膠原病の診察は可能です。関節周囲の痛みや筋肉痛、原因不明の皮疹や発熱など、お気軽にご相談ください。少しでもお役に立てれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

学研都市病院 消化器内科

村田浩昭 Hiroaki Murata

5月1日付で学研都市病院に着任いたしました。大阪大学医学部附属病院、大阪南医療センター、大阪急性期総合医療センター、八尾市立病院で勤務後、米国へ留学。帰国後に学位を取得し、関西労災病院、JCHO大阪みなと中央病院、奈良西部病院で消化器内科および内科全般の診療に従事してまいりました。当院では月曜・金曜午前に外来を担当いたします。上下部消化管疾患や肝臓脾疾患などの消化器疾患をはじめ、内科全般に丁寧に対応させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学研都市病院 泌尿器科

牛田 博 Hiroshi Usida

皆様、初めまして。4月1日付で学研都市病院 泌尿器科部長に着任しました牛田 博と申します。学研都市病院の泌尿器科はこれまで非常勤体制でしたが、初の常勤医として泌尿器科疾患の外来・入院診療に従事いたします。私は1995年に滋賀医科大学を卒業し、同泌尿器科医局に入局。大学病院で2年間研修後、大阪赤十字病院 泌尿器科医員、宇治徳洲会病院 泌尿器科医長として臨床経験を積み、滋賀医科大学に助教として戻りました。大学院では精巣腫瘍のエピジェネティクス研究で学位を

取得しました。卒業後は滋賀県立成人病センター 泌尿器科医長、2014年から前職のJCHO滋賀病院 泌尿器科部長（結石センター長兼任）として勤務しました。尿路悪性腫瘍（腹腔鏡手術）や尿路結石（内視鏡治療）を中心に診療を行い、前職では排尿障害診療にも注力し、排尿自立支援を目的としたカイツブリ外来・かいつぶりラウンド（排尿自立支援加算対象）を立ち上げました。今年（2025年）で卒後30年を迎える節目に所属医局を離れ、学研都市病院で勤務することとなりました。当院では泌尿器科患者さんはまだ少ないですが、常勤医として少しずつ診療の充実を図ってまいります。泌尿器科疾患でお困りの際はぜひ当科を受診いただければ幸いです。

今回、国内でも珍しい人事プロジェクトとして始まった愛泉会日南病院との人事交流に、1ヶ月間参加しました。愛泉会日南病院は、全国でも数少ない重症心身障害専門医療機関として、重い障害を持ち医療的ケアを受けながら生活されている患者様に、医療・福祉サービスを提供し、地域医療の推進に努めておられます。

現在、私は地域包括ケア病棟に勤務し、入院患者の多様化や地域に密着した看護の重要性、看護師の人材育成・スキルアップの必要性を日々感じています。他院の看護の現場を知り、普段経験できない分野の看護や医療に触れ、自身の看護力を高め人材育成に活かせると考え、今回の人事交流に参加を決意しました。慣れない環境や初めての看護に戸惑う場面もありましたが、場所や看護内容が違っても、尊厳を持って「人を見る」という看護の原点は共通し、決して忘れてはならないものだとして再認識できました。

皆さんの温かい支えの中、無事1ヶ月を終え、大きな成長を実感しています。得た経験や学びは、これからの看護人生の糧となるはずです。今後も向上心を持ち続け、地域から必要とされる病院づくりに努めてまいります。愛泉会日南病院の皆様にご心より感謝申し上げます。貴院のますますのご発展をお祈りいたします。



糖尿病と教育入院について

糖尿病は一生付き合っていく病気ですが、正しい知識を持ち、適切な治療と生活習慣の改善により、合併症を予防することができます。そのためには、定期的な受診と継続的な治療が重要です。受診を中断すると、血糖コントロールが不安定になり、合併症のリスクが高まります。医師や医療スタッフと連携し、治療を続けていきましょう。

糖尿病教育入院は、糖尿病を適切に管理するための知識と技術を学ぶ大切な機会です。入院中は、医師や看護師、管理栄養士、薬剤師などの専門スタッフが連携し、食事療法、運動療法、薬物療法、合併症の予防など、日常生活に役立つ指導を行います。スタッフまでお気軽にご相談ください。

糖尿病の3つの治療法



形成外科でのボトックス治療(自由診療)を開始しました

このたび当院では、気になる表情じわや顔のけいれん、多汗症のお悩みにお応えするため、ボトックス治療を開始しました。

◆ ボトックスとは ◆

ボツリヌス菌から抽出した成分を使い、筋肉や汗腺の動きを一時的にやわらげる注射治療です。

- ・額や眉間、目じりなどのしわを目立ちにくくする
- ・まぶたや顔のけいれんをやわらげる
- ・わきの多汗症による発汗を抑える

など、さまざまなお悩みの改善が期待できます。

当院では、形成外科専門医がしっかりと話を伺い、治療について丁寧に説明いたします。注射は資格を有する医師が行いますので、初めての方も安心してご相談ください。気になることがございましたら、どうぞお気軽にスタッフまでお声かけください。



院内勉強会を開催しました

京都八幡病院では、医師・薬剤師・看護師を中心に様々な職種が集まり、院内勉強会を開催致しました。

■講師：医師

■テーマ『チューブ抜去時(予定外抜去)の対応について』

■講師：薬剤師

■テーマ『医薬品(麻薬)使用に関する注意喚起について』

上記のテーマについて、勉強会を開催しました。

勉強会には、医師・薬剤師・看護師・リハビリテーション科職員など様々な職員が参加し、動画やスライドを使用した講習を熱心に傾聴し、質問も多く飛び交い、充実した時間となりました。

今後も京都八幡病院では、医療に関わる一人ひとりの職員が、常に知識と技術の研鑽に努め、チーム医療の向上と働きがいのある職場づくりを目指してまいります。



医療安全川柳

京都八幡病院では、医療安全対策委員会の活動として、医療安全をテーマに『医療安全川柳』を院内機関誌に、毎月掲載しています。職員一人ひとりが、医療安全を身近に考えることができるように、病院内で起こる様々な事例を題材に川柳を詠んでいます。

京都八幡病院 医療安全対策委員会
医療安全川柳

一月 人により 違うルールは 事故のもと
二月 伝えよう 疑問・質問 ありがたう
三月 思い込み 確認せずに 医療事故
四月 気をつけよ その向こうに 人がいる
五月 なんか変 小さな気付き ミス防ぐ
六月 かとうさん 入ってきたのは さとうさん
七月 「教えて」の一言が スタートだ
八月 確認を サボったわが身に 倍返し
九月 レベルゼロ その発見が 事故ゼロに
十月 急ぐから 省いたひとつが 一大事
十一月 どうしよう 迷ったときは 相談を
十二月 毎日の 確認継続 事故防ぐ



介護老人保健施設「梨の里」は、2025年4月より「在宅強化型老健施設」として新たに運営を開始いたしました。

在宅強化型老健施設とは、国の方針に基づき老健施設の機能分化が進む中で、特に利用者の在宅復帰支援機能が高く評価された施設に認められる区分です。

「梨の里」では、在宅復帰・在宅療養支援機能加算の要件を満たし、地域における

在宅支援拠点としての役割をさらに強化してまいります。

今後はこれまで以上に法人内外の病院・施設との連携を深め、ベッド回転率の向上や質の高いケアの提供に力を入れ、将来にわたり地域から必要とされる施設であり続けることを目指してまいります。



介護老人保健施設 石清水

移乗の講習会を実施

2025年2月21日、京都府立八幡高等学校（南キャンパス）福祉科の生徒の皆さんを対象に、移乗動作に関する講習会を実施いたしました。

講義では、介護現場で必要となる基本的な知識や、安全な移乗の考え方を中心に解説しました。生徒の皆さんはメモを取りながら真剣な表情で耳を傾けており、学びに対する高い意欲が非常に印象的でした。実技では、学校の授業ではあまり触れる機会の少ない介助

を、実際に体験していただきました。最初は初めての動作に戸惑いながらも、職員のフォローや助言をすぐに吸収し、積極的に実践に取り組む姿が見られました。質問も積極的に寄せられ、現場での応用を意識した視点からのものが多く、将来を見据えた真摯な学びの姿勢が伝わってきました。

全体を通じて、生徒の皆さんは非常に熱心かつ前向きに取り組まれており、今後の成長が大いに楽しみです。



介護老人保健施設 とちのき

行事紹介 お花見ドライブレク

とちのきでは、日常のレクリエーションに加えて、季節に合わせた月ごとの行事を開催しています。今回は、春の行事として実施した「お花見ドライブレク」を紹介いたします。

当日は、春にしては少し肌寒い気候でしたが、桜は間もなく満開を迎える頃で、利用者様も「綺麗やねえ」「桜のトンネルみたいになっているね」「まだ全然散ってないね。見頃やわ」などと口々に話され、春の景色を楽しまれていました。

また、道中で菜の花をご覧になった際には、「この風景に黄色が映えるね」「春やねえ」といったお声も聞かれ、皆さま思い思いに春の訪れを感じておられる様子でした。帰り道には、「また観たいわ。また連れて行ってね」とのお言葉をいただき、職員一同、大変嬉しく思いました。

これからも、利用者様に楽しんでいただける行事を企画・開催できるよう、職員一同努めてまいります。



サービス付き高齢者向け住宅 テレザートさくら

＼入居者募集中／

当施設は八幡中央病院と連携し、安心・安全な生活環境を整えています。透析治療が必要な方もご相談可能で、通院には送迎サービスがございます。要介護度の高い方もお気軽にご相談ください。

面会・外出・外泊も自由で、自分らしい毎日を送っていただけます。医療と生活の安心が両立できる住まいを、ぜひご検討ください。

施設をお探しの方は是非一度お立ち寄りください。急な訪問でも大歓迎です。

お問合せ：テレザートさくら ☎ 075-201-0160



医聖会グループ

医療法人社団 医聖会

本部 〒614-8071 京都府八幡市八幡五反田39-1

医聖会

八幡中央病院

介護老人保健施設

梨の里

介護医療院

梨の里

サービス付き高齢者向け住宅

テレザートさくら

京都八幡病院

介護老人保健施設

石清水

八幡中央病院 京都八幡病院 院内保育所

たんぽぽ

社会福祉法人 京都山城福祉会

特別養護老人ホーム

ゆりのき

学研都市病院

介護老人保健施設

とちのき

学研都市病院 院内保育所

ひまわり



医聖会理念

患者さまと病院職員は、心の通い合う医療を通じて、お互いの信頼のもとで、ともに手をたずさえて病気の克服に努めます。

医聖会グループでは職員を募集しています。お問合せ・資料請求は、医聖会本部 人事部 採用担当まで ☎ 075-971-5565